

「第 158 回日商簿記 ズバリ！ 1 級の中 完全予想模試」の読者の方へ

弊社が「第 158 回日商簿記 ズバリ！ 1 級の中 完全予想模試」（以下、「第 158 回 完全予想模試」）を刊行後、日本商工会議所より「収益認識に関する会計基準等の適用に伴う簿記検定試験の出題区分表の改定」（以下、「出題区分表の改定」）の発表が先日、ありました。

そして、同「出題区分表の改定」においては、工事契約について 2021 年度に限り出題対象としないこととして
います。なお、2022 年度からは工事契約について、「収益認識に関する会計基準」適用後の処理が出題対象とな
ります。

ここで、工事契約における原価比例法の計算自体は、「収益認識に関する会計基準」適用前及び適用後におい
ても存在する点から、弊社では「第 158 回 完全予想模試」の会計学 第 2 予想 第 2 問に工事契約の問題を掲載しま
した。

しかし、出題対象としないことが発表されたため、読者の方におかれましては、**差替えの問題（本 PDF の次ペ
ージ以降）をご用意しました。**お手数ですが、こちらをご活用いただきますようお願い申し上げます。

「第 158 回 完全予想模試」の会計学 第 2 予想 第 2 問の差替え

差替え前：工事契約

差替え後：分配可能額の計算、株主資本等変動計算書の作成(次ページ以降)

2021 年 3 月 29 日 ネットスクール株式会社

(問題)

第2問

以下に示す当期(×7年1月1日～×7年12月31日)の取引にもとづいて、答案用紙に掲げる株主資本等変動計算書(略式)を作成しなさい。株主資本等変動計算書の金額が減少となる場合には数字の頭に△印を付すこと。

なお、前期末における「のれん」と「繰延資産」の残高はそれぞれ23,500千円、12,300千円であった。

1. 当期の×7年1月1日から×7年6月30日までの取引(上から取引順)

- (1) 新株を発行し3,000千円の払込みを受けた。資本金組入額は会社法規定の最低額とする。
- (2) 自己株式を750千円で取得した。
- (3) 自己株式500千円を処分し、570千円の払込みを受けた。
- (4) 剰余金の配当(分配可能額のうち30%を繰越利益剰余金、20%をその他資本剰余金より配当)を行った。

なお、準備金について、会社法が定める額について積み立てている。

2. 当期の×7年7月1日から×7年12月31日までの取引

自己株式450千円を消却した。

3. 決算に関する資料

当期純利益は3,280千円であった。

(答案用紙)

第2問

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

(単位：千円)

	株 主 資 本						純資産 合 計
	資 本 金	資本準備金	その他資本 剰 余 金	利益準備金	繰越利益 剰 余 金	自己株式	
当期首残高	19,500	1,560	3,560	1,890	6,200	△910	31,800
当期変動額							
新株の発行							
剰余金の配当							
当期純利益							
自己株式の取得							
自己株式の処分							
自己株式の消却							—
当期変動額合計							
当期末残高							

会計学 第2予想 第2問 差替え 解答・解説

第2問
解答

株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	株 主 資 本						純資産 合 計
	資 本 金	資本準備金	その他資本 剰 余 金	利益準備金	繰越利益 剰 余 金	自己株式	
当期首残高	19,500	1,560	3,560	1,890	6,200	△910	31,800
当期変動額							
新株の発行	1 1,500	2 1,500					3,000
剰余金の配当		3 120	4 △1,520	7 180	8 △2,280		△3,500
当期純利益					9 3,280		3,280
自己株式の取得						10 △750	△750
自己株式の処分			5 70			11 500	570
自己株式の消却			6 △450			12 450	—
当期変動額合計	1,500	1,620	△1,900	180	1,000	200	2,600
当期末残高	21,000	3,180	1,660	2,070	7,200	△710	34,400

採点対象箇所「 」1つにつき1点 合計10点

解き方(以下、仕訳の単位：千円)

Step 1 当期中の取引に関する仕訳(剰余金の配当を除く)

(1) 新株の発行

資本金組入額は会社法規定の最低額とあるため、払込金額の半分を資本金とし、残り半分を資本準備金とします。

(現金預金)	3,000	(資本金)	1,500 ^{*1}	1
		(資本準備金)	1,500 ^{*2}	2

*1 3,000千円× $\frac{1}{2}$ =1,500千円 *2 3,000千円-1,500千円=1,500千円

(2) 自己株式の取得

自己株式については増加が「△」となり、減少が「△なし」となることに注意しましょう。

10 (自己株式)	750	(現金預金)	750
-----------	-----	--------	-----

(3) 自己株式の処分

(現金預金)	570	(自己株式)	500	11
		(その他資本剰余金)	70 [*]	5

* 貸借差額

(4) 自己株式の消却

6 (その他資本剰余金)	450	(自己株式)	450	12
--------------	-----	--------	-----	----

(5) 当期純利益の計上

(損益)	3,280	(繰越利益剰余金)	3,280	9
------	-------	-----------	-------	---

Step 2 剰余金の配当の額の算定

1. 配当等の効力発生日(以下、分配時)の剰余金の額 $3,560千円 + 70千円 + 6,200千円 = 9,830千円$

その他資本剰余金 その他利益剰余金
(繰越利益剰余金)

2. 分配時の剰余金の額から控除すべき項目

分配可能額 = 分配時の剰余金 - 分配時の自己株式 - 自己株式処分対価 - 分配制限額

- (1) 分配時の「自己株式」の帳簿価額 910千円+750千円(取得)−500千円(処分)=1,160千円
 (2) 分配時までの「自己株式」の処分の対価 570千円
 (3) 「のれん等調整額」に係る分配制限額 1,100千円^(注) (注)下記5.で解説します。

3. 分配可能額

9,830千円−1,160千円(自己株式)−570千円(処分的対価)−1,100千円(分配制限額)=7,000千円

4. 剰余金の配当

(1) 配当額の計算

繰越利益剰余金からの配当：7,000千円×0.3=2,100千円

その他資本剰余金からの配当：7,000千円×0.2=1,400千円

(2) 準備金要積立額の計算

① 剰余金の配当額× $\frac{1}{10}$ ：(2,100千円+1,400千円)× $\frac{1}{10}$ =350千円

② 配当時の資本金× $\frac{1}{4}$ −配当時の準備金：(19,500千円+1,500千円(新株発行))× $\frac{1}{4}$

−(1,560千円+1,500千円(新株発行))+1,890千円=300千円

③ 準備金要積立額：① > ② ∴ 300千円

利益準備金積立額=300千円× $\frac{2,100千円}{2,100千円+1,400千円}$ =180千円

資本準備金積立額=300千円× $\frac{1,400千円}{2,100千円+1,400千円}$ =120千円

(3) 剰余金の配当の仕訳

8	(繰越利益剰余金)	2,280	(利益準備金)	180	7
			(未払配当金)	2,100	
4	(その他資本剰余金)	1,520	(資本準備金)	120	3
			(未払配当金)	1,400	

5. のれん等調整額に係る分配制限額について

「のれん等調整額」とは、資産の部(前期末貸借対照表)に計上された「のれん」の額の2分の1と「繰延資産」の額の合計額をいいます。この「のれん等調整額」と「資本等金額」を比較して、一定の場合に分配制限額が生じます。

ケース		分配制限額
(1)	「のれん等調整額」≤「資本等金額」	ゼロ
(2)	「資本等金額」<「のれん等調整額」 ≤「資本等金額+その他資本剰余金」	「のれん等調整額」−「資本等金額」
(3)	「のれん等調整額」>「資本等金額+その他資本剰余金」	
①	「のれん÷2」≤「資本等金額+その他資本剰余金」	「のれん等調整額」−「資本等金額」
②	「のれん÷2」>「資本等金額+その他資本剰余金」	「その他資本剰余金」+「繰延資産」

「のれん等調整額」：23,500千円÷2+12,300千円=24,050千円

「資本等金額」：19,500千円+1,560千円+1,890千円=22,950千円

「資本等金額+その他資本剰余金」：22,950千円+3,560千円=26,510千円

「のれん÷2」：23,500千円÷2=11,750千円

24,050千円 > 22,950千円 (「のれん等調整額」は「資本等金額」を上回っている。)

↓ (ケース(2)へ)

24,050千円 ≤ 26,510千円 (「のれん等調整額」は「資本等金額+その他資本剰余金」以下である。)

よって、上記(2)ケースに該当します。

∴ のれん等調整額に係る分配制限額：24,050千円−22,950千円=1,100千円